



長崎空港ビルディング 代表取締役社長

ゆきしげ たかのり
幸重 孝典 氏

◎出身校

慶應義塾大学商学部

◎好きな言葉

カスタマーファースト／実るほどこうべを垂れる稲穂かな

◎趣味

1日8000歩を目標にしたウォーキング



11月より導入された自動配膳ロボットServi

変化に対応 強く生き残る企業へ

新型コロナウイルス禍の影響で2021年3月期の決算は、創業以来のピンチとも言える状況でした。ですが、感染状況が落ち着いて昨年秋季ごろからようやく回復基調が見えはじめ、長崎空港の利用客も増えていると実感しています。

長引くコロナの影響で、旅行や買い物の形態は以前と比べて大きく変化しており、それに敏感に対応する必要があります。当社では中期経営計画を1年前倒しで見直し、新たな計画を策定。「環境変化に対応し、強く生き残れる企業への成長」を掲げ、コロナ禍を契機に時代に即した組織への変革を目指しています。

消毒や検温などの感染対策はもちろん、レストラン「エアポート」には利用客とスタッフの接触を減らせる配膳・運搬ロボット「Servi」を導入。旅行に行けないが県産品は欲しい、空港で買い物する時間がないという人のために、オンラインショップも

拡充しました。エアポートショップ「MiSolair海空」では、レジ集約や宅配便受け付け場所の配置見直し、送料無料キャンペーンなど、ニーズに対応した取り組みを展開しています。

地域に親しまれ、共に成長できる空港に向けた取り組みは続けていきます。昨年は空港で陶器まつりを初開催したほか、地元の子どもたちによる展望デッキでの花植えイベントも実施。今後も県や自治

